

NGO-労働組合同際協働フォーラム 2010 年度活動報告

(2010 年 9 月～2011 年 8 月)

はじめに

本フォーラムは、NGO と労働組合間の相互理解と協働事業を促進することにより、『国連ミレニアム開発目標 (MDGs)』に掲げられた、貧困、人権、平和、環境などの諸課題の解決に寄与することを目的として、2004 年 9 月に発足した。設立 7 年度目にあたる 2010 年度は、NGO19 団体 (うち参加 NGO5 団体) 及び労働組合 13 団体が参加して活動を行った。そのうち NGO8 団体、労働組合 9 団体により構成される「合同企画委員会」の運営のもとで、これまで続けてきたグループ活動とタスクチーム活動を継続した。

本活動報告では、「フォーラム全体の活動」「課題別グループ活動」「事業別タスクチーム活動」「フォーラム会員団体一覧」「事務局体制」について報告する。

1. フォーラム全体の活動

1. 合同企画委員会

計 5 回の合同企画委員会を開催し、本フォーラムの活動方針、活動計画、予算等についての協議と承認を行った。

2. 全体会の開催

参加 NGO も参加して行う全体会を 2010 年 12 月 6 日に開催した。また、全体会と合わせて国際連帯税に関する学習会も行った。

3. 学習会

本年度の学習会は、2010 年 12 月 6 日に開催した全体会の第一部として行なった。「国際連帯税とその動向」をテーマに、田島純一氏 (国際連帯税を推進する市民の会) にレクチャーをいただき、国際連帯税についての学びを深めることができた。

4. 広報の強化

本フォーラムパンフレットのメンバー一覧等を更新し、印刷を行った。あわせてウェブサイトの強化も行う予定だったが、検討の結果行わないことになり、代わりに新たな広報ツールとしてメールマガジンの発行を月 1 回行うことになった。これにより、これまで個人情報保護の観点から連絡を控えていた過去のイベント参加者向けに広報が可能になり、また本フォーラムの情報を定期的に発信する機会を作ることができた。下記ホームページにメールマガジン登録のフォームを設置している。

- ・ 連合：開発協力活動 (NGO との協働) のページ

<http://www.jtuc-rengo.or.jp/kokusai/kaihatsukyoryoku/index.html>

- ・ JANIC：NGO-労働組合同際協働フォーラムのページ

<http://www.janic.org/activ/ngounderstand/unionforum/index.php>

II. 事業別タスクチームの活動

1. 児童労働反対世界デー・イベント タスクチーム

1) タスクチーム基本目標

- ・ 児童労働反対世界デー・イベントの企画、運営を共催団体との調整を含めて行う
- ・ 本イベントの企画・運営プロセスに、NGO・労働組合国際協働フォーラム参加団体が参加し、それぞれの強みを活かしたイベントを実施する
- ・ 出来る限りフォーラム参加団体が参加しやすい機会を提供する

2) 2010年度の目標

- ・ 6月12日の児童労働反対世界デーに合わせてイベントを行い、児童労働問題について一般市民が知るきっかけを作る。
- ・ 同時期に実施される児童労働反対世界デーキャンペーンなどの活動と連携し、広報、集客効果を高めるとともに、児童労働について知って何かをしたいと考える人たちのアクションにつなげられるようなプログラムを作る。また、東京以外の地域でも参加出来るよう工夫をする。
- ・ 本イベントは児童労働ネットワーク、国際労働機関との共催で実施し、各自の活動について周知を図る。

3) 活動実績

児童労働反対世界デー 映画上映会&シンポジウム「ファッションで世界を変える
～危険・有害労働から子どもを守るために～」の開催

- ・ 開催日時：2011年6月12日（日） 13時45分～18時00分
- ・ 場所：文京学院大学 仁愛ホール（東京都文京区）
- ・ 共催：NGO・労働組合国際協働フォーラム、児童労働ネットワーク、ILO 駐日事務所

報告：「児童労働反対世界デー」（6月12日）当日に、映画上映会&シンポジウムのイベントを開催した。3月11日に発生した東日本大震災による影響を考慮し、例年より目標規模を縮小しての開催となった。

今年は初の試みとして、子どもによる児童労働の演劇を上演した。インドの子どもたちが置かれている状況を子供が伝える迫真の演技は心に響き、参加者からも好評を得た。その後、バングラデシュの衣料工場で働く女の子たちを描いた映画『Garment Girls of Bangladesh』を上映し、続く基調講演として ILO 駐日事務所代表の長谷川氏より、今年度のテーマである「危険・有害労働」の実態についての共有があり、休憩時間に屋外での児童労働反対アピールの記念写真撮影を行った。

後半はスペシャルゲスト・トークとしてファッションモデルの富永愛さん、ナビゲーターのアンドレア・ボンピリオさんをゲストにお迎えし、ご自身が体験したファッションと児童労働の関係についてお話していただき、多くの参加者の共感を呼んだ。続くシンポジウムでは、児童労働問題に衣料産業・ファッションの観点から取り組む企業・フェアトレード企業・NGO・学生からパネリストをお迎えし、パネルディスカッションを行った。アンドレア・ボンピリオさんのナビゲートのもと、パタゴニア日本支社環境担当の篠健司さん、ピープル・ツリー常務取締役の胤森なお子さん、(特活) ACE 国際協力事業担当の成田由香子さん、SFCC (Slow Fashion Culture Creative) の牧野祥子さんが活発な議論を交わし、それぞれの立場から出来るアクションを提案して、イベントは幕を閉じた。

今年「危険・有害労働」の他に「ファッション」という身近なテーマを設定し、イベント全体を通じて一貫したわかりやすいテーマで児童労働を伝えられた。また、児童労働をなくすためのアクションを起こしてもらうため、イベントを通じてアピールし、缶バッジの配布や、アクションモニュメント作成への参加を呼び掛けを通じて、参加者によるアクションを促した。会場ロビーには NGO 活動紹介デスクを設置し、参加者が児童労働への理解を深める機会を提供した。

当日は一般市民（特に大学生・大学院生・企業の方）、労働組合員、NGO 関係者、マスコミ関係者など 329 名が参加し、NGO 活動紹介デスクに主催者を含む 17 団体が出展、当日運営には本フォーラム参加者を中心に約 70 名の NGO、労働組合のスタッフが参加した。なお、本イベントは「児童労働反対世界デーキャンペーン 2011」（主催：児童労働ネットワーク）の賛同イベントとして、キャンペーンの一翼を担った。

4) 成果と課題

目標

- ①6 月 12 日の児童労働反対世界デーに合わせてイベントを行い、児童労働問題について一般市民が知るきっかけを作る。
- ②同時期に実施される児童労働反対世界デーキャンペーンなどの活動と連携し、広報、集客効果を高めるとともに、児童労働について知って何かをしたいと考える人たちのアクションにつなげられるようなプログラムを作る。また、東京以外の地域でも参加が出来るよう工夫をする。
- ③本イベントは NGO・労働組合国際協働フォーラム、児童労働ネットワーク、ILO 駐日事務所との共催で実施し、各自の活動について周知を図る。

達成度と課題

- ①達成できた。今年の 6 月 12 日に日本で開催した最大の児童労働イベント。参加者からの評価も高く（アンケート回答者 181 名のうち 169 名・93%がよかったと回答）、また初めて参加者も多く（アンケート回答者 181 名のうち 158 名・87%が初めての参加）、児童労働問題について知るきっかけを作れた。
- ②a) アクションにつなげる：達成できた。アンケート回答者のうち 162 名（90%）がアクションをとろうと思ったと回答した。アクションモニュメントの仕掛け作り、イベント内容への組み込みによってアクションを促せた。
b) 東京以外の地域での参加：震災の影響もあり、対策が困難であった。次年度は USTREAM（ウェブ配信）を使うなどの工夫を計画している。
- ③ロビーに活動紹介デスクを置く、また 3 者それぞれが開会・閉会の挨拶に立つなどの工夫をして、ある程度周知できた。ただ、もう少し団体の活動をアピール出来るとよかったという声もあったので、引き続き工夫していく。

その他の課題

- ・イベントプログラムが豊富で時間が長い。イベント参加対象や、期待する成果などを考慮しながら、戦略を考えていく必要がある。
- ・もう少し参加者を増やせるとよかった。参加呼びかけの工夫を全体で検討していきたい。
※震災の影響も大きいので今年は特別なケースではある。

2. キャンペーン検討タスクチーム

1) 基本目標

関心のある組合員、一般市民が参加できるキャンペーンを推薦または実施することでグローバル社会の課題をアピールすること。

2) 2010年度の目標

- ・推薦および主体的に取り組むキャンペーンについての審査、合同企画委員会への提案を滞りなく行う
- ・承認された主体的に取り組むキャンペーンについては積極的にフォーラムメンバーの参加を促し、推進に努める。

3) 活動実績

- ・2011年2月1日に行った会合にて、「推薦」と「主体的に取り組むキャンペーン」の2つに分かれていた申請を一本化し、名称を「積極的に支援するキャンペーン」に変更することとした
- ・積極的に支援するキャンペーンの申請フォームを変更し、第52回合同企画委員会に提案を行い、承認された。
- ・積極的に取り組むキャンペーンとして、下記の申請の一時審査を行い、合同企画委員会に提案し、承認された。

①STAND UP TAKE ACTION (スタンド・アップ テイク・アクション)

主催団体：動く→動かす

承認期間：2011年9月1日～2011年8月31日

②世界の「貧しい」を半分に。MDGs2015 キャンペーン

主催団体：特定非営利活動法人国際協力 NGO センター (JANIC)

承認期間：2011年9月1日～2011年8月31日

③児童労働反対世界デーキャンペーン 2011

主催団体：児童労働ネットワーク (CL-Net)

承認期間：2011年5月5日～6月30日

4) 成果と課題

- ・積極的に取り組むキャンペーンとして3つのキャンペーンの審査をすみやかに行い、承認を得ることができた。
- ・キャンペーンの申請方法を整理し、新フォーマットを作成した。

3. 連携事例報告会開催タスクチーム

1) 基本目標

NGO と労働組合が出会う場、連携のあり方を学ぶ場を提供する。

2) 2010年度の目標

1) について、報告会というこれまでの枠組みに縛られず、HP の充実など、違ったアプローチを模索する（年に1回の報告会という発表型から、HP などを活用した恒常的な情報発信へと、取り組み方を変える）。

3) 活動実績

タスクチームとしては、特段の活動を行わなかったものの、2)に基づき、事務局にてメルマガ発行の準備を行った。

4) 成果と課題

本タスクチームは2010年度をもって活動を終了する。

報告会形式で連携事例を紹介するという取り組みは、当初は成果を挙げたものの、回を重ねる毎にマンネリ化したきらいは否めない。そこで、恒常的な情報発信の手法について検討した結果、メルマガ発行が決まり、NGOと労働組合の連携についての新たな情報提供の場ができた。これにより、これまで本タスクチームが担ってきた役割は、メルマガに発展的に継承されると判断、本タスクチームとしての活動を終了することとした。

III. 課題別グループ活動

1. 児童労働グループ

1) 活動実績

①メーデーへの参加

メーデーでのNGOの参加が中止になったので、活動しなかった。

②映像ツール作成

児童労働の実態を図や映像、ナレーションの力を借り、分かりやすく知るためのツールとして作成した。当初は「動くパネル」というコンセプトだったが、次のステップに踏み出してもらうために、一步後押しをするというコンセプトに変えていった。そのため、NGOからのみ「自分たちで何ができるか」を発するのではなく、労働組合での取組みを紹介し、連合古賀会長のコメントやフォーラムの会議風景、NGOや労働組合でこの問題に解決に向け動いてきた個人のそれぞれのメッセージを発信することで、多様な人を巻き込んでいけるように心がけた。

ミーティングでは、労働組合やNGOが持つ動画・写真を持ち寄り、ミーティングを重ね、シナリオは第10稿を数えるまで練りこんだ。やわらかで印象的なナレーションと効果的な動きをつけるなどは、制作をお願いした(株)ライズビデオエイティの協力によるものである。

次年度にこれを使ってどのような巻き込み型の活動ができるかが課題である。

※「世界の児童労働～今わたしたちにできること～」13分

③6/12 児童労働反対世界デーイベントの役割分担

NGO活動紹介デスクの申込みが15団体からあり、仁愛ホールロビーの窓側の数段上がったスペースにまとめ、申込み順に入り口から配置した。

主催者側スペース、ILO写真展、アクションスペースはロビーのゆったりとしたスペースにまとめ、活動紹介デスクとホールとの行き来が多くあるなど、動線をつけていくことができた。この動線は終了時にも見られ、帰宅せず活動紹介デスクに寄ってからという参加者も見られた。

2. HIV/エイズ等感染症グループ

1) グループ基本目標

労働組合員や一般に対して、国内外のHIV/AIDSの現状と正しい知識を伝え、HIV感

染の予防と、職場内の差別や偏見の解消を図り、国際的な取り組みを行う労働組合ネットワークやNGOを紹介し、その活動への支援参画を促す。

2) 2010年度の目標

- ①ILO 総会での新勧告の採択を受け、職場環境の改善などのツールとしての活用を広く議論する。
- ②2009年度に作成したプログラムメニューを使用した、ワークショップ実施を積極的に働きかけ、実施していく。

3) 活動報告

①組織運営

a) 参加組織

労働組合 2 組織（日本化学エネルギー鉱山労協（ICEM-JAF）、国際食品労連日本加盟労組連絡協議会（IUF-JCC））、NGO 4 組織（（特活）アフリカ日本協議会（AJF）、（財）国際労働財団（JILAF）、（特活）シェア＝国際保健協力市民の会（SHARE）、（特活）難民を助ける会（AAR JAPAN））の合計 6 組織で活動を展開した。

b) 事務局体制

グループ事務局は毎年持ち回りで担っているが、2010年度は難民を助ける会が担当した。また、イベント毎に下記の通り担当を割り振った。

イベント	担当組織
活動パネル展	JILAF、ICEM-JAF
シンポジウム	JILAF、ICEM-JAF
メーデー※出展中止	AJF
エイズ文化フォーラム in 横浜	SHARE
アジア太平洋地域エイズ国際会議への参加	IUF-JCC

c) グループ会議

グループ会議は以下の日程で 5 回開催した。

2010年11月1日、11月30日、2011年3月1日、6月22日、7月20日

②活動

a) 活動パネル展

実施日：2010年12月1日～12月15日

場所：総評会館 1階ロビー

内容：世界エイズデー（12月1日）にあわせ、一般の方、総評会館を利用する方を対象に、HIV／エイズ問題および当グループメンバーそれぞれが行っている対策活動を紹介するパネル展示を行った。

b) エイズデーシンポジウム

実施日：2010年12月15日

場所：総評会館 連合 3A-B 会議室

参加者：34名（事務局含む）

内容：①のパネル展にあわせて開催した。世界エイズデーを機会として、HIV／エイズ問題について考えるきっかけを提供するため、例年開催している。

○テーマ「ILO「HIV及びエイズと仕事の世界に関する勧告」の活かし方」

(1) HIV／エイズ等感染症グループ紹介

(2)基調講演「ILO 第 200 号勧告に関して」ILO 駐日事務所 代表長谷川真一氏

(3)パネルディスカッション

コーディネーター：AJF 稲場雅紀氏

パネリスト：日本 HIV 陽性者ネットワーク・ジャンププラス 桜井啓介氏

連合総合労働局雇用法制対策局 局長 市川佳子氏

厚生労働省労働基準局安全衛生部国際室 室長補佐 安部敏志氏

c) エイズ文化フォーラム in 横浜

実施日：2010 年 8 月 6 日

場所：かながわ県民センター（神奈川県横浜市）

参加者：一般参加者、NGO スタッフ・インターン等 14 名

内容：グループメンバーである SHARE が国内外で実施しているエイズ啓発のためのワークショップを実施した。あわせて、当グループの紹介を行った。

d) 第 10 回アジア太平洋地域国際エイズ会議への参加

開催日：2011 年 8 月 26 日～30 日

場所：釜山（韓国）

参加者：アジア太平洋地域で HIV／エイズ問題に取り組む団体、個人等。

当グループからは、IUF-JCC、SHARE から各 1 名が参加した。

内容：全体会合のほか、各参加団体による報告、シンポジウム、ブース展示、ポスター展示などが多数実施された。本会議への参加により、アジア太平洋地域における HIV／エイズの状況や様々な取り組みを学ぶことができた。この成果は次年度以降の活動に活かしていく。

4) 目標の達成度と課題

年度目標の①である ILO 新勧告の活用の議論喚起に関しては、昨年度のエイズ文化フォーラムに引き続き、エイズデーシンポジウムを通して啓発に努め、勧告採択の意義を周知することに貢献できたと考える。しかし、実際に職場で活用するためには、本勧告のみ個別で取り上げるだけでなく、エイズ問題全般に対する認識や知識の向上をはかる必要がある。来年度以降は、アジア太平洋地域国際エイズ会議に参加した成果も活かし、より一層の啓発に取り組む。

年度目標②については、ワークショップを実施することができなかった。昨年度検討課題とした連合青年活動委員会、連合安全衛生担当部局との連携による実施について方策を検討したが、機会を持つことが難しかった。来年度以降も引き続き実施先を検討していく。

3. 母子保健グループ

1) グループ基本目標

・労働組合と NGO が協力し、国際的な母子保健の課題について、継続的かつ分かりやすい啓発活動を行い、組合員や一般市民に課題意識を高めてもらう。

・妊産婦保健と乳幼児保健の実質的な改善につながる様、実現可能なアクションの参画を拡大化させる。

2) 2010 年度の目標

2010 年の国連の報告によると、MDGs の目標の一つである妊産婦の健康の改善については、一部地域を除いて現状のままでは目標達成は不可能とされており、今後は今まで以上の進展が求められている。また、日本政府は 2010 年 9 月に行われた MDGs に関する国連首脳会合において「菅コミットメント」として、保健・教育分野への新たな支援政策を表明した。このような状況のもと、当母子保健グループは特に途上国における妊産婦の健康の改善へ向けた取り組みを進めるため、

- ・途上国における妊産婦保健の現状や課題について、労働組合員の問題意識を高める。
- ・上記のため、各会議やイベント時等に併せて、参加型の学習会やセミナーを実施、あるいはブース出店、パンフレット配布など、より多くの啓発活動を実施し、更に実現可能なアクションに繋がるよう取り組む。
- ・連合構成組織内の認識を拡げるため、パンフレット、機関紙、Web、Blog、Twitter などを活用する。
- ・他の NGO や労働組合に、グループ活動への参画を呼びかけ、活動拡大を図る。
- ・上記を通じて、母子保健の問題についてアクションを起こす組合員を増やす。

3) 実施した活動内容

2010 年度から新たに国公連合と基幹労連の 2 産別の母子保健グループの活動への参加が始まり、グループとして以下の活動を行った。

- ・2011 年 1 月 27 日～28 日に開催された電機連合「第 97 回中央委員会」の会場においてブースを出店し、母子保健活動の取り組みへの啓発活動を行った。
- ・2011 年 3 月 8 日に連合の主催で開催された「3.8 国際女性デー中央集会」の会場においてブース出店し、パネル展示とともに「労働組合がなぜ途上国の母子保健活動に取り組むのか」と題し母子保健活動を紹介するパンフレットを配布し啓発活動を行った。
- ・2011 年 4 月 29 日に連合の主催で開催された「第 82 回メーデー中央大会」は東日本大震災の影響により規模を縮小した開催となったため、計画していたブース出展は中止となった。
- ・2011 年 7 月 2 日に金属労協 (IMF・JC) の主催で開催された「金属労協 2011 年度女性交流集会」の際に「労働組合がなぜ途上国の母子保健活動に取り組むのか」パンフレットを配布し、啓発活動を行った。

4) 目標の達成度や課題等

東日本大震災の影響もあり、やむを得ず中止せざるを得なかった活動もあったが、上記の各集会でのパンフレット配布に対しては後日、集会参加者からの問い合わせがあったことや連合加盟組合員から出身組織での啓発活動用にとパンフレットの送付依頼があった。このことから、わずかではあるものの組合員に対する母子保健の啓発活動はある一定の成果をあげることが出来たと考えている。次年度は、パンフレット配布にとどまらず、参加各産別のホームページ上での活動紹介やウェブを用いた情報の発

信など、より多くの手段を用いた効果的なピーアールを行い、組合員とその関係者等へのさらなる啓発活動に努めてゆく。

Ⅲ. 事務局体制

本フォーラムは、その事業遂行にあたり、労働組合側事務局として日本労働組合総連合会（連合）、NGO側事務局として（特活）国際協力NGOセンター（JANIC）が共同で事務局を担った。

Ⅳ. フォーラム会員団体一覧(2010年8月31日現在)

次頁は、フォーラムの会員団体一覧である。企画委員の担当団体、及び各グループ活動への参加団体に○印をつけた。

2010年度メンバーおよび活動体制(2011年8月31日現在)

団体名	企画委員	グループ活動			タスクチーム			担当者(敬称略)	担当部署等
		児童労働	HIV/AIDS等 感染症	母子保健	児童労働シ ンポジウム 運営タスク チーム	NGOと労働 組合の連携 事例報告会 運営タスク	キャンペ ン検討 タスクチ ーム		
自治労								佐藤 克彦	国際部長
UIゼンセン同盟	○	○						齊藤 直子	男女参画・社会運動局副部長
自動車総連	○	○			○			市ノ瀬 雅彦	国際局長
国際食品労連日本加盟労組連絡協議会 (IUF-JCC)	○	○	○		○			中田 展宏	事務局長
電機連合	○			○				齊藤 千秋 松永 あゆ	国際部長 国際部
基幹労連	○			○	○			沖中 博	事務局次長
国公連合	○			○			○	平山 幸浩	中央執行委員 (政労連国際部長)
JR総連	○						○	木瀬 慶子	特別執行委員
日本化学エネルギー鉱山労協 (ICEM-JAF)			○					徳永 典弘	副事務局長
NTT労働組合中央本部		○					○	白瀬 恵美子	企画組織部中央執行委員
JAM	○	○						三浦 志朗	企画・渉外室
日教組								江藤 創平	国際部長
連合	○						○	塩田 正行 星野 裕一	国際局長 国際局
団体名	企画委員	グループ活動			タスクチーム			担当者(敬称略)	担当部署等
		児童労働	HIV/AIDS等 感染症	母子保健	児童労働シ ンポジウム 運営タスク チーム	NGOと労働 組合の連携 事例報告会 運営タスク	キャンペ ン検討 タスクチ ーム		
(特活) アフリカ日本協議会	○		○				○	稲場 雅紀	「動く→動かす」事務局
(社) アムネスティ・インターナショナル日本	○	○			○			谷口 玲子	渉外担当
(特活) ACE	○	○			○			岩附 由香 植木 美穂	代表 政策提言事業 ネットワーク 構築・協働事業
(特活) エファジャパン								大島 芳雄	事務局長
オルタモンド							○	遠野 はるひ	事務局次長
国際連帯税を推進する会 (ACIST)							○	田島 純一	
(財) 国際労働財団	○	○	○		○			熊谷 謙一 井上 友孝	副事務局長 新事業開発グループリーダー
(特活) シェア=国際保健協力市民の会	○		○					小林 由紀男	事務局長
公益社団法人シャンティ 国際ボランティア会								中原 亜紀	海外事業課 課長
(財) ジョイセフ	○			○				筒野 芳樹 佐藤 幸子	支援事業グループ プログラム・マネージャー プログラム・オフィサー
(特活) 難民を助ける会			○					小川 祐子	広報・支援者担当
(特活) 日本国際ボランティアセン ター	○						○	萩野 洋子	広報・カレンダー事業担当
(特活) BHNテレコム支援協議会		○			○			山崎 孝子	広報担当
(特活) 国際協力NGOセンター	○							山口 誠史 井端 梓	事務局長 広報・渉外グループ
(財) ダイバーシティ研究所	参加NGO				○		○	前川 典子	
(特活) チャイルド・ファンド・ジャ パン	参加NGO						○	中村 律子	会計・庶務グループ
(特活) フリー・ザ・チルドレン・ ジャパン	参加NGO	○			○			伴野 保志	
(特活) ヒューマンライツ・ナウ	参加NGO	○						浅井 美絵	
(財) 民際センター	参加NGO	○			○			富田 直樹	コミュニケーション開発局 第2PR部部長